

恵みと真理のニュース



2020年01月の二次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]



しかし、神は私と共にある道を知っている。／その方が私を試せば、私は金のように価値を現す

今まで私が、誰にも話せなかった過去の罪をこの証を通して、主と私を知る皆さんの前で告白し、新しい心でもっと神様を畏れ、愛する生活をすると決心します。神様の限りのない哀れみの恵みに感謝を捧げます。私は、牧師の家庭で生まれ育ちました。早くわたしの曾祖父から 牧師で主を仕え、祖父について父もあとを継いで 牧師の道を歩んでいます。祖父と父は祈りで私を世の光を見せてくださりました。また、祈りで私を育ててくださいました。親は教会と聖徒達を仕え、福音を伝えることに全身全力を尽くしました。教会は、家族の代々に家庭であり職場でした。礼拝を捧げて主のため献身する生活も 曾祖父の後を継いで、家族にとっては唯一無二の生活徳目でした。しかし、幼い私には礼拝と教会で行う全ての事と生活が、神様に向う信仰と愛ではなく、生まれる時から親をついて習慣的に行う行動と生活に過ぎませんでした。イエス様を頭だけで知り、賛美も単純に歌う意味以上ではなかったです。祈りをする時間はほかの事を考える時間でした。育ちながら、わたしの信仰の足りなさや形式的な信仰態度が、大きい悩みでした。牧師の子供なのに礼拝の時間に信仰もなく、ただ座って時間をつぶしたり、たまには、神様の存在まで疑っている状況を親にはどうしても話せなかったです。そのような、私にまた一つの悩みが増えました。人々からの視線です。人々は信仰的な面の以外にも道徳と倫理と規範など、全ての面で牧師の家族を対する判断基準と期待が特別でした。それで、少しも間違った言行をすると人々はすぐ“牧師の息子が何であんなふうなの。”という話を聞かれました。さらに学校に行く時に準備物を忘れて行くくらい小さい過ちでも“牧

師の息子がそんな態度をしてもいいの。”という話をよく聞かなければならなかったです。そんな事を経験することに痛みと傷が、わたしの心に重ねました。私の過ちが、父の名誉と使役と否定的な影響を及ぼすように、気になり、心細くなりました。幼い心で親も恨んで後は神様まで恨みに至るようになりました。そんな状態で大学に入学しました。大学生になると、もう私も大人になったと信じているいろいろな言い訳をして世の自由を味わいました。神様は考えなくて全ての事をわたしの意志で行いました。不信者と違いがない生活をしながら、親の視線が気になって主日だけちょっと教会に行ったりしました。そんな私を見ながら親が切に勧める話も耳に入らなかったです。そのように時間が経って、親が牧会地を地方に移しました。私は、会社に入ってから親と離れて住むようになりました。そうしながら、もっと世の中で彷徨しました。主日を守らなくて、神様に祈らなかったです。主の御旨を拒んで行きながら、世から受けた傷を受けて、むしろ神様を恨み不平をしました。そのように限りなく墜落し続けた私を主は諦めなくて、愛の手を指し伸ばして、立ち上がらせました。会社を辞めてから時間を浪費しながら過ごしたある日、久しぶりに友達に会うようになりました。その中で一人の友達が、わたしの近況と信仰生活に対して詳しく聞いてから、自分が仕えている教会と一緒に通うと勧めました。恵と真理教会を仕えている真実な友達でした。その友達に伝道と助けて、わたしの全てが変えられる気かけになりました。聖霊様が働いてくださって拒否もなく教会に行く約束して、予定されていた恵と真理教会の青年修練会にすぐ参加しました。修練会で当会長のチョ牧師の特別講義を聞いてまた、祈りをする中で聖霊様の働きで神様に涙の悔い改める祈りを捧げました。今までの生活が走馬灯のように流れました。わたしのため十字架に書かれて地を流し、死なれたイエス様の姿を見ました。使役で忙しい中でもわたしのため、祈った親の顔が浮かびました。主にも申し訳ないし、親に面目ないですが、一方、主と親に感謝する心に限り感謝する心で涙を流し

ました。私はこの日、聖霊様の臨在と能力を体験して聖霊様の導きにて下さったとおりに祈り、祈りの答えで主を確信するようになり、神様を恐れ、委ねて愛する生活をすると強く決断しました。その後、わたしは、教会で全ての礼拝と青年として参加する全ての集まりに休まずに努力し、主日に教会奉仕を始めました。神様は信仰生活でモデルになる青年達と共にするように導いてくださって教会生活によく適応することが出来ました。教会で神様に礼拝して聖徒達を仕え、奉仕することは楽しく感謝する心で行うと、神様は 私の人生にも肯定的な変化を下さいます。、最善を尽くすように助けてくださいます。神様の恵みで新しい目標を設定して、この事を成し遂げるため、再び学校に行き熱心に勉強しています。神様は私に主の名を高く上げて、主の栄光のため聖なるビジョンを当ててくださいました。このように私と共にして下さり、助けて節理してくださいました神様の大きい恵と愛に感謝を捧げます。神様は限りない権能と知恵で瞬間に私を変化させてくださいました。主と教会に対して抱いたわたしの否定的な心を瞬間に主に向う限りない愛の心で変化させました。これから、私は牧師の息子で生まれ生きているのが感謝した、誇りです。私は確信します。神様は選ばれた者のため私たちが知らない方法でお働いておられます。絶対に、私たちを掴んだその手を離さないです。このような確信があるから、これからどんな状況でも相変わらず主を愛し、明るい心で主を賛美しながら幸せな心で生きて行きます。私に新しい目標が出来ました。私を恵と真理教会に導いてくれた友達のように、私も彷徨する魂を教会に導く事にもっと熱心を尽くします。また、他の人々に有益になる聖徒になるように希望します。そのように当会長の牧師の御言葉と祈りと教えをよく受けて、主を委ねながら最善の努力をします。“しかし、神は私と共にある道を知っている。／その方が私を試せば、私は金のように価値を現す。”(ヨブ記23:10)



[信仰コラム]

努力を止めなさいそして努力しなさい

“...わたしたちは、こう思う。人が義とされるのは、律法の行いによるのではなく、信仰によるのである”
(ローマ書 3:23~28)

聖書には人が罪の許しを受けて救いを得る方法が啓示されています。そして救いを得た人が必ず行うべきのことについて記録されています。これに関連した重要な単語の中で信仰という言葉と行いという言葉があります。救いと信仰生活において必須的な信仰と行いに関して調べてみます。

まず、救いを得るためには何かを行って救いを得ようとする努力を止めなければなりません。

ある金持ちの青年官員がイエス様の前に跪坐して“尊い先生。私は何をしたら、永遠のいのちを自分のものとして受けることができるでしょうか”と質問しました。イエス様が言われる戒めを幼い時から守っておると言いました。するとイエス様が“あなたのする事がまだ一つ残っている。持っているものをみな売り払って、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい”と言われました。

イエス様が金持ちの官員に言われた御言葉に救いの真理が明確に現れています。これを整理すると次のようです。“救いを得るためには自分の行為で救われようとする努力を徹底に諦めるべきです。神様が私達に求められるのは信仰だけです。その信仰とは私達の罪を贖うために十字架につけられて死なれ、蘇られたイエス様だけを救い主として信じることを言います。”救

いのために人間が努力することは何もありません。イエスキリストの贖いの恵みを信じてイエスキリストだけが救い主であることを信じることに別にすることはありません。

その後、信仰生活のためには努力すべきです。信仰で救われた人は信仰生活を良くするために励まなければなりません。私達が励むべきことの中で五つを調べてみましょう。

一、伝道に励むべきです。“神のみまえと、生きている者と死んだ者とをさばくべきキリスト・イエスのみまえで、キリストの出現とその御国とを思い、おごそかに命じる。御言を宣べ伝えなさい。時が良くて悪くても、それを励み”としました。伝道は滅びの道に行く人を生命の道に導くことです。始めるのは難しいが、すればするほど大胆になり様々な場合に適切に行動する知恵ができます。

二、良い事に励むべきです。“このキリストが、わたしたちのためにご自身をささげられたのは、わたしたちをすべての不法からあがない出して、良いわざに熱心な選びの民を、ご自身のものとして聖別するためにほかならない”としました。

三、主の事に励むべきです。“だから、愛する兄弟たちよ。強く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの労苦がむだになることはない、あなたがたは知っているからである”としました。聖徒達に仕えること、教会で受けた職分が全て主の事です。サタンはこれを嫌がり試みに陥るようさせて苦しめて主の事を諦めるようにします。従って強く立って動かないようにすべきです。

四、集まることに励むべきです。“愛と善行とを励むように互に励め、ある人たちがいつもしているように、集会をやめることはしないで互に励まし、かの日が近づいているのを見て、ますます、そうしようではないか”としました。終末の日が近づくほど信者達が集まりを疎かにする状況に処されるのが預言されました。従って互いに励ましてより集まることに励むべきです。五、お祈りに励むべきです。“望みをいだいて喜び、患難に耐え、常に祈りなさい”としました。最後の晩餐の後、オリブ山でイエス様が弟子達に“誘惑に陥らないように祈りなさい”と言われました。なのにもお祈りに励まず寝ていた弟子達はイエス様が捕まえられる時、全て逃げてしまいました。危機を大胆に対処できませんでした。

皆さんは、救いを得るために自分の功勞と努力を加えようとする考えは徹底に捨てて私達の罪を贖われたイエスキリストだけを信じてください。そして信仰生活の発展のために努力してください。伝道に励んで良い事に励み、主の事に励んで集まることに励んでお祈りに励むことで信仰生活が日増しに向上されて豊かになることを祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

誤 解



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

誤解とは間違えて理解したり、間違った判断を下ろすことを意味します。

私達は、信仰に関する行為と教訓を接する時、それが真の聖書的なのかと深く考えるべきです。間違ったら、人間の遺伝と教訓と判断で、聖書の教えを誤解するからです。イエス様は人の遺伝で神様の御言葉を誤解するユダヤ宗教の指導者達を向かって責めました。

ある日、ユダヤの宗教指導者達がイエス様の話しをわなにかけようと質問しました。“先生、モーセは言おうと “ある人の兄が死に、妻を残して子がいない場合、その弟は兄嫁と結婚して、兄のために子をもうけねばならない、さて、七人の兄弟がいました。長男は妻を迎えましたが、子を残さないで死にました。次男が彼女を妻にしましたが、子を残さないで死に、三男も同様でした。こうして、七人とも子を残しませんでした。最後にその女も死にました。復活の時、彼らが復活すると、彼女は誰の妻になるのでしょうか。後を継ぐ結婚という制度は、イスラエルの共同体の中で守り続けられる、独特な風習でした。これは、モーセを通して宣布された話で、申命記にも記録されています。先祖から伝わる企業を続けて維持する措置でした。イエスは言われた。「あなたがたは聖書も神の力も知らないから、そんな思い違いをしているのではないか。死者の中から復活するときには、めとることも嫁ぐこともなく、天の御使いのようになるのだ。死者が復活することについては、モーセの書の『柴』の箇所、神がモーセにどのように言われたか、読んだことがないのか。『私はアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』とあるではないか。神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ。”と誓いました。天国では男性と女性ではない中性になるという話ではなく、御使いのようにめとることもなく嫁に行くこともないという話です。

信仰生活を正しくするためには、聖書に記録された御言葉をたくさん読んで聞くべきです。また、その御言葉の意味を正しく理解しなければなりません。聖書の御言葉を誤解すると、それによる損失と被害は大きいのです。今日は信仰に関連する主張と教える中で、人々が誤解していることいくつか整理して調べましょう。

第一は、肉身に対するものと物質的なものを神様に求めるのは、低次元で幼稚な祈りという主張は聖書を誤解したことです。

魂は、善で肉体と物質は、悪い思想は聖書の教えではありません。それは人間の思想です。聖書は物質を悪いものであると規定しません。天地創造の記事を見ると創造した物質世界に対して、神様が良しとされたと記録しました。釘で打たれ死なれ、葬られたイエス様は肉体を捨てずに、そのまま復活しました。聖徒達の肉体も将来復活されるようになります。

聖書の中でどこでも物質的なものや肉身的なことに関して悪いと話しません。神様は、アブラハムを豊かに金持ちになるようにしてくださいました。神様は、天からマナが降りて、イスラエルの民を荒野で 40 年間食べさせ、着ていた服は擦り切れず、靴は破れないように助けてくださいました。イエス様は彼に返って来た人々の病気になる体治して奇跡を起こし、数千人の君主達をお腹いっぱい食べさせました。肉身的なものや物質的なものを神様に求めることは少し異常なことではなかったですが、これが間違った動機で求めることは聖書が禁じています。健康で豊かな生活をして積極的に礼拝と伝道と奉仕するのを願い求めなければなりません。このような願いと動機として求める皆さん “求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。叩きなさい。そうすれば、開かれる。” (マタイの福音書 7: 7) “

“口を大きく開けよ、私はそれを満たそう。” (詩篇 81: 10) 主の御言葉を信頼して神様の恵みの身座の前で大胆で積極的に求めるのを願います。

第二は、聖書に記録された奇跡と驚いたことは事実ではないので人の理性で理解できる説明が必要であり、奇跡を期待することは健全な信仰の姿勢ではないという主張は聖書を誤解したのです。

神様が、全知全能であること知り、信じる聖徒は、神様が聖徒のため奇跡を行ってくださることを期待できます。聖徒達のため、神様が、奇跡を与えてくださることは人間に対する熱い愛と、深い関心の表現です。聖書が記録され、保存されて、私達の手に入った事実を考えると奇跡だと思っただけではありません。奇跡の本である聖書には神様が、行われた数多くの奇跡とわざが記録されています。以前の人々を通して奇跡を行われた神様は、今も私達を通して奇跡を行われておられます。

イエス様が、 “よくよく言うておく。私を信じる者は、私が行う業を行うだろう。そればかりか、もっと大きなことを行うであろう。私が父のもとへ行くからである” (ヨハネの福音書 14: 12) と言われます。

人が、自分が出ることもできなくて、神様の奇跡を求めることは間違った態度です。しかし、人の知恵と力で解決することが出来ない苦難に直面した時には、神様が助けてくださることを期待することを諦めることはもっと間違った態度です。イエス様が “イエスは言われた。「神を信じなさい。よく言うておく。誰でもこの山に向かって、『動いて、海に入れ』と言ひ、心の中で少しも疑わず、言ったとおりになると信じるならば、そのとおりになる。” (マルコによる福音書 11: 22, 23) と誓いました。聖書は神様の奇跡を求めて信じる人々によって起きる話でいっぱい書いています。

第三は、神秘体験は誰でもできることではないという主張は聖書を誤解したことです。

神秘体験は普通に体験されるのではないと思う人がいます。間違った考えです。神秘を除外したら、キリスト教はただ、道徳と宗教的な意識に過ぎません。誰でもイエス様を信じる瞬間から神秘を体験します。

罪が赦され、新しい命を得て神様の子になる生まれ変わるようになります。私達が神様の愛と恵と真理を悟るようになることも神秘体験です。

“ 私たちは世の霊ではなく、神の霊を受けました。それで私たちは、神から恵みとして与えられたものを知るようになったのです。” (コリント信徒への手紙 2: 12) と書いてあります。私達が聖霊の賜物は、知識の言葉、知恵の言葉、信仰、癒やしの賜物、奇跡を行う力、預言する力、霊を見分ける力、異言を語る力、異言を解き明かす力 (コリント信徒への手紙 12: 8~10) を受ける神秘体験です。これに対し、霊の結ぶ実は、愛、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制であり、これらを否定する律法はありません。(ガラテヤの信徒への手紙 5: 22, 23) を結ぶことも神秘体験に属します。自分が経験した神秘体験が神様から来たのなら愛することと、徳を立てるようになることでしょう。

第四は、信仰生活をとても熱性的で献身的にする聖徒を狂信者として思い扱うことは聖書を誤解したのです。

人々は世の中に属することに嵌ってしまうことは非難しません。スポーツ、芸術の活動、冒険的な事、事業、旅行、登山にはまると高く評価します。しかし、信仰生活に熱心になると狂信者だと非難します。神様を使えることに献身的なら悪く度が過ぎると判断します。実は神様を仕えすぎることは可能ではありません。主のため、生涯と命を捨てても度が過ぎていると言えません。私達を救うために、神様がどんなことをなさったのかをしっかりと知れば知るほど神様を仕えることが足りないと思うようになります。皆さんは信仰的なことに関して間違っ、理解して判断する人々の教えに揺れないように注意してください。肉身に関するものと物質的なものを神様に求めることが低次元で幼稚な祈りだと主張は聖書を誤解したことです。むしろ、全ての事にいつも豊かにあって、良いことが溢れるように願ひましょう。聖書に記録された奇跡と業は事実ではないので人の理性では、理解できるように説明が必要であり、奇跡を期待することは健全な信仰の姿勢ではないという、主張は聖書を誤解したことです。人には不可能なことがあっても、神様には不可能なことがありません。どんな場合でも落胆しなくて奇跡的な変化と救いを期待しましょう。

神秘大変は誰でも出来ることではない主張は聖書を誤解したのです。イエスキリストを信じることはとても驚くべき神秘大変です。神霊な体験を愛して聖書の御言葉の中で求めましょう。信仰生活を熱心に献身的にする聖徒を狂信者として思うことは聖書を誤解したことです。神様は私達にくださった恵みと愛を考えると、神様を仕えることに戸を超えて仕えることは、可能ではありません。主のため、全ての生涯と命を捨てても度が過ぎるとはいえませんが、聖徒、皆さんは信仰に関する行為と教訓を接する時、人間の遺伝と教訓と判断で聖書の教えを誤解しないように、それが真の聖書的なのか調べて分別して、行うように願ひます。